



花取り踊りをうけつぐ子どもたち（斗賀野白倉神社）

あかわ *Sakawa* 議会だより

72
2017.12.1

発行 高知県佐川町議会

9月定例会

contents 目次



老いも若きも参加して
（加茂地区民運動会）

町議会 新たな構成決まる 2

平成28年度決算
集落活動センター整備すすむ 6

一般質問
町政4年間の総括と課題 16

なれもが輝けるまちをめざして

町民の声に耳を傾ける議会へ

期待を寄せられる議会へ



議長
永田 耕郎

初冬を迎え、あわただしい季節になりました。町民の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、10月23日の臨時会におきまして、議員各位のご推挙により議長に就任いたしました。大変光栄でありますとともに、責務の重さに身が引き締まる思いです。

地方分権の時代を迎え、自治体の自主的な決定と責任が拡大されています。本町におきましても、全国の自治体同様、少子高齢化、人口減少等さまざまな課題が山積しています。

議会においては、先の町議会議員選挙により3人の新しい議員を加え、二元代表制の一翼を担う議会としての立場と責任を再認識し、より一層の創意工夫を重ね積極的な政策提言を行うよう研鑽していくことが大きな責務であります。

今後も、町民福祉向上のため、町民の目線に立ち、皆様の声に耳を傾けて、執行部とともに知恵を出し合い町政運営に努めていく所存でありますので、一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

このたび、町議会議員選挙後の臨時会において、副議長に選任されました。身に余る光栄に感じますとともに、その職責の重大さに、身の引き締まる思いです。

さて、10月8日に行われました、町議会議員選挙は、投票率が前回の選挙より11・15ポイント低い、63・37%という結果となりました。このことを、我々議会、そして議員一人一人が重く受け止めなければならぬと感じております。

これからの4年間、我々議会に課せられた責任は重く、町民の皆さんから信頼され、期待を寄せられる議会へと大きく変わっていくために、さらなる議会活性化に取り組んでまいります。

町執行部に対しては、時にはアクセル役を、時にはブレーキをかけ、政策提言機能とチェック機能をしっかりと果たせるよう、全力で取り組んでまいります。一層のご指導とご支援を心からお願い申し上げます。



副議長
松浦 隆起

10月23日に臨時会が開かれ、正副議長や各常任委員をはじめ、議会の新しい人事構成が決まりました。

総務文教常任委員会

主に総務課、税務課、収納管理課、教育委員会などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。



委員長・4期
岡村 統正 議員

今回の町議選の投票率は過去最低でした。議会に対し、町民の皆様に関心を持ってもらえるよう、より一層議会活動、議会改革等を進め、町民の目線に立ち、町民の声を町政に届け、町民の安全・安心、住みよい町へさらに進めていかなくてはなりません。

今後も、本町発展のために精いっぱい頑張ってまいります。



6期
永田 耕朗 議員

別掲 2ページ
議長あいさつ



6期
西村 清勇 議員

高齢化が進む中、農業も後継者不足で大変な危機を迎えています。農業を続けたくても周囲が荒地になり、作れない状況が起きかねません。

早期に行政と共に手助けを考えて行く必要があると思っています。また、少子化問題も深刻な事であり、若者が住みやすい町、働く場を提供する事が大事だと思っています。ご指導を宜しくお願いします。



副委員長・5期
中村 卓司 議員

私は、議員活動を始めて5期目となりました。その間、町民の皆様の声や町政に反映させてきました。今後は、農業基盤整備や農業法人の立ち上げ、農産物の加工所や販売の窓口になる道の駅の新設、子育て支援のための保育・幼稚園の無料化、町の観光戦略等々、私は全身全霊で町発展の戦いを続けます。



2期
下川 芳樹 議員

佐川町に住むすべての人たちが元気で明るい生活が営めるよう、行政と町民が役割を分担し力を合わせて取り組む町づくりを進めてきました。

今後は町内4か所の集落活動センターを活用し、地域それぞれの課題と地域の色を尊重して皆さんと一緒に解決してまいります。



3期
森 正彦 議員

「佐川に住んでいてよかった」と思える町づくりを進めます。このことが、産業、教育文化、健康福祉、災害対策等、全ての政策の基となります。

これからの4年間、町民の皆さんの代表として、議会と議員の役割を自覚し責任を全うします。



4期
松浦 隆起 議員

別掲 2ページ
副議長あいさつ

産業厚生常任委員会

主に産業建設課、国土調査課、健康福祉課、町民課、病院などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。



委員長・8期
藤原 健祐 議員

佐川町も少子高齢化が進んでいます。本町議会においても、大川村議会のように、議員のなり手不足が懸念される状況になりつつあると感じています。若い世代の方々が、議会に関心、期待を持ってもらえる議会にならないと考えています。皆様の代表として、責任を持ち議員としての役割を全うします。



2期
邑田 昌平 議員

今、かつて経験したことのない激しい人口減少が始まろうとしています。右肩上がりの成長が前提だったあらゆる事柄は、転換が迫られるでしょう。3人に1人を高齢者が占める時代を目前に、豊かな社会制度の整備が求められています。その実現に向けて取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



3期
片岡 勝一 議員

少子高齢化社会と言われて久しくなりました。今後も農業・産業振興、教育・文化の発展そして福祉の充実に努め、佐川に生まれ住み良かったと心から思え、また言える、希望ある町づくりを目指して皆様方とともに考え取り組む決意であります。これからもご指導よろしく願いたします。



副委員長・1期
西森 勝仁 議員

人口減少社会が進む中、これからの佐川町には稼げる産業おこしと仕事の確保が重要です。また、安全・安心できれいなまちづくりは町民みんなの願いです。このため、私は、皆様方の声なき声や少数意見を町政に届けてまいりますので、どうかお力を貸してください。



1期
橋元 陽一 議員

「すこやかに生まれ、健やかに育ち、健やかに老いる」ことができる町づくりに取り組みます。医療・福祉の切り捨て、改憲の動きや原発再稼働など国民のいのちとくらし、福祉の大切さをないがしろにする国の政治の防波堤になる議会の役割と責務を果たしていくためにがんばります。



1期

佐川町の総合計画や福祉計画も進んでおり、5地区の活動拠点も実働し、町内各お宝の活用にも磨きかけられています。私は特に女性目線からの意見要望を聞き、それらの提案内容の代弁者として、町政に提言していきたいと考えています。つながりのある、住みよい、自慢のできる強い町づくりを目指します。



2期
坂本 玲子 議員

子どもたちが、幸せに生きることが私の一番の願いです。そのためには原発も戦争もない世界を望みます。高齢であっても、障害があってもすべての人が生き生きと暮らせるよう、皆さんの声をしっかり受け止め、必要な施策を実現していきたいと思っています。

議会広報編集委員会

議会の審議、活動等について広く、住民の方に公開周知することを目的に、議会広報の編集を行います。



前列右より
坂本玲子
◎下川芳樹
○西森勝仁
後列右より
宮崎知恵子
橋元陽一

議会運営委員会

議会の日程、議案や一般質問の取り扱いなど議会運営を円滑に行うために必要な事項や、議長からの諮問事項を審査します。



◎委員長 ○副委員長
前列右より
藤原健祐
◎西村清勇
○中村卓司
後列右より
西森勝仁
岡村統正
松浦隆起

国道494号佐川バイパス 整備促進特別委員会



前列右より
宮崎知恵子
◎松浦隆起
○森正彦
後列右より
邑田昌平
橋元陽一

※適正な行財政運営が行われているか、定期的に監査します。



西森勝仁

議会選出
監査委員

永田耕朗
藤原健祐
松浦隆起
坂本玲子

高吾北広域町村
事務組合議会議員



永田耕朗
下川芳樹

日高村佐川町
学校組合議会議員

9月定例会

平成28年度

一般会計・特別会計の決算を認定

集落活動センター 整備すすむ

9月定例会は、8日から15日までの会期で開かれました。

平成28年度決算の認定のほか、平成29年度補正予算をはじめ、条例改正など議案24件、報告4件、意見書4件を審議し、採決の結果、賛成全員及び賛成多数で全件を可決しました。

一般質問には8人の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。



一般会計

前年に比べ、歳入は、7億5千万円の増、歳出は、7億9千万円余りの増となっている。

歳入では、固定資産税の償却資産の増加や歳出増の要因となっている集落活動センター整備等大型事業の国や県の補助金が増加している。

歳出では、臨時福祉給付金等の扶助費、集落活動センター整備、小学校耐震化工事、黒岩保育所新築工事、文化センター耐震改築工事、普通建設事業等で増加している。

病院事業

事業収支においては、純利益1億円弱の黒字となっている。

年間取扱患者数は、入院患者約3万3千人、外来患者約5万5千人となっている。

介護老人保健施設の利用者は、約5千人。また、デイケア、デイサービス利用者はさくら荘約5千人、斗賀野荘約6千人となっている。

水道事業

事業収支においては、純利益1千万円余りの黒字となっている。

町内の給水栓数は、4917栓となっている。

国民健康保険事業

歳入20億円余り、歳出19億7千万円弱となっており、平成28年度には、繰入基準額以外に一般会計から繰り入れはなかった。

平成30年度から、県が県内市町村とともに国保の運営を担うこととなっている。

介護保険事業

歳入16億9千万円余り、歳出16億5千万円余りとなっている。

平成28年度各会計の決算状況

歳出

総額130億5,176万円

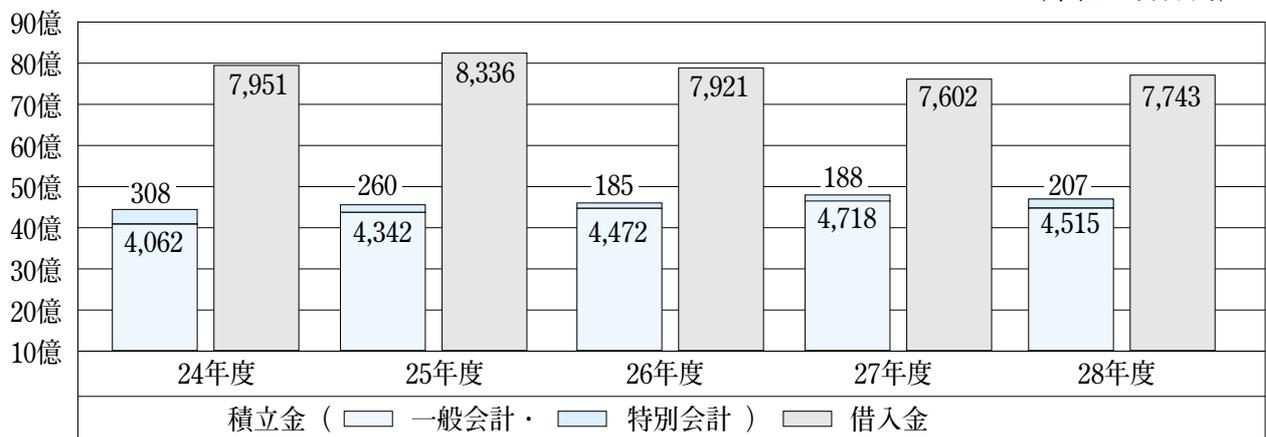
(単位:円)

会計名	決算額				
	歳入	歳出	翌年度繰越額	実質収支額	
一般会計	76億9,995万	73億2,222万	9,945万	2億7,828万	
特別会計	国民健康保険	20億844万	19億6,977万	0	3,867万
	住宅新築資金等貸付事業	1,224万	183万	0	1,042万
	学校給食	4,595万	4,595万	0	0
	農業集落排水事業	2,586万	2,586万	0	0
	介護保険	16億9,584万	16億5,093万	0	4,491万
	後期高齢者医療	2億1,639万	2億1,255万	0	384万
	水道事業	1億7,862万	1億6,111万	0	1,751万
	病院事業	17億6,046万	16億6,155万	0	9,891万
合計	136億4,375万	130億5,176万	9,945万	4億9,254万	

※水道・病院事業特別会計は税抜収益的収支を記載

積立金・借入金の推移

(単位:百万円)



※借入金は、特別会計・一般会計の合計金額を記載

町の基金

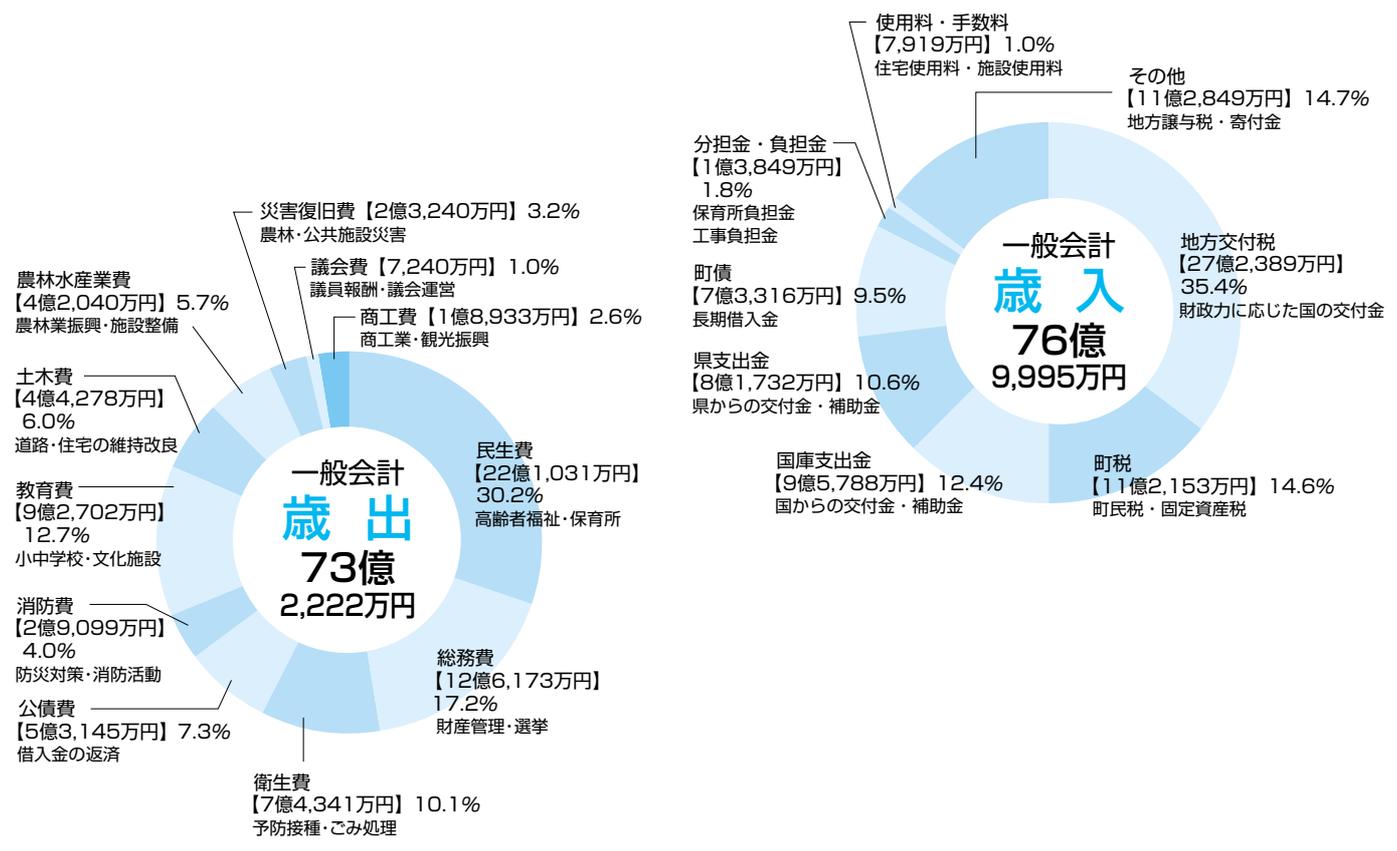
町の基金(貯金)の状況は、平成28年度には1億8千万円余り増え、年度末現在高は47億2千万円余りとなっている。

町の借入金

一般会計では、借入金は、2億5千万円余り増加した。特別会計においては、1億円余り減少し、全体としては1億5千万円程度増加し総額77億円余りとなっている。

どう生かされた？みんなのお金

災害に強い町に



監査意見(要旨)

監査委員
上田 益 英
徳 弘 初 男



平成28年度の一般会計の決算の状況は、歳入では7億5千万円余りの増額、歳出では7億9千万円余りの増額となつている。

歳入において、固定資産税の課税客体の増加、軽自動車税の税率改正等により地方税収入の増加、小学校耐震化工事の増額、集落活動センターの増額、集落活動センター整備事業等、県支出金の増加が要因である。

歳出においては、臨時福祉給付金等の扶助費で増加、集落活動センター整備、小学校耐震化工事、黒岩保育所新築工事、文化センター耐震改築工事、給食センター増改築工事、霧生閣整備等、普通建設事業費で大幅な増加が主な要因である。

未収金の状況は、一般会計、特別会計を含める

と、不納欠損額は約427万円で、前年度より約707万円減少し、収入未済額は約5715万円で、前年度より約1556万円減少している。徴収率や未収金について決算状況を見ると、児童福祉費負担金、住宅使用料、給食費においては、現年徴収率百分を達成している。収納業務の一元化を図り、滞納整理を強化してきた成果が顕著に表れているのではないかと考える。

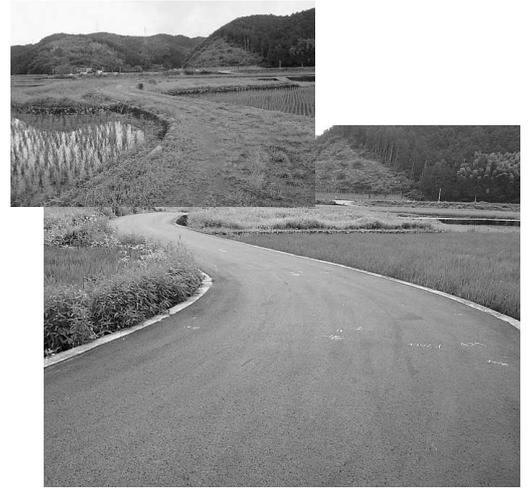
今後においては、財政状況を踏まえ、投資のパラメータを固りながら、必要な財源を確保し、住民の負託と信頼に応えるべく、最少の経費で最大の効果を挙げるよう、計画的、効率的かつ効果的な行政運営を推進されることを要望して、監査報告及び意見とする。

平成28年度 決算質疑

平成28年度佐川町 一般会計の決算に ついて

中村議員 産業建設課に
おいて今回の決算で積み
残された事業の件数は何
件か。積み残しの理由は
何か。

産業建設課長 地元要望
で執行できなかった件数
が9件、町道、河川の改
修・修繕で24件ある。積
み残しは平成28年度予算
で工事予算が足りなかつ
たためだ。



要望箇所の着手前と完成

条 例

佐川町手話言語の
普及及び障害者の
コミュニケーション
手段の利用を促
進する条例

意思の疎通に障害のある
方が手話を含め、点字、
代読、音読、要約筆記等
のコミュニケーション手
段の普及及び利用促進を
図るため、新たに条例を
制定する。

関 連 質 疑

坂本議員 来年度に向け
て、予算措置を含め、ど
のような計画を立てて進
めるつもりか。
健康福祉課長 条例の周
知、研修会等への手話通
訳や要約筆記等の配置等
を考えている。すぐでき

ることと時間を要するこ
となどがある。町全体で
考えてできることから取
り組んで行きたい。

中村議員 条例制定には
現場の関係者と話をして
制定したのか。

健康福祉課長 制定にあ
たっては身体障害者協議
会、手話サークルの方た
ちに案を示し了承しても
らった。

斗賀野駅舎の設置
及び管理に関する
条例

四国旅客鉄道株式会
社より譲渡され、耐震
及び改修工事を実施し
たJR斗賀野駅舎につ
いて、交流スペースを
供用開始するにあたり、
施設の設置及び管理に
関し必要な規定を定め
るため、新たに条例を
制定する。

さかわくるくるバ
スの運行に関する
条例

10月から本格運行を実
施するさかわくるくるバ
スの路線、運賃等、必要
な事項を定めるため、新
たに条例を制定する。

佐川町集落活動セ
ンターの設置及び
管理に関する条例
の一部改正

斗賀野地区に新設す
る集落活動センターを
供用開始するにあたり、
施設の設置及び管理に
関し必要な規定を定め
るため、条例の一部を
改正する。

指 定 管 理

(管理を委託する施設)

とかの集落活動センター
あおぞら

(管理を行う団体)

NPO法人とかの元気村

工 事 請 負 契 約 締 結

佐川地区岡崎堰水利施設
機能保全対策工事

(契約の方法)

指名競争入札

(契約金額)

5032万8千円

(契約の相手)

有限会社 愛機工業

9月定例会で決まりました



耐震改修工事が完成 (斗賀野駅舎)



平成 **28** 年度

この事業に議会が

注目

9月定例会で平成28年度の決算認定がされました。平成28年度に実施された事業の中で議会が注目した事業を紹介します。



新しい園舎で元気にあそぶ子どもたち

児童の安心安全、健やかな成長を目的とし、28年度は保育所新築工事および付帯工事を実施した。

**黒岩中央保育所
新築事業**

2億4,696万円

住民の皆さんによる地域づくり、活性化のための拠点となる集落活動センターが、黒岩・加茂地区は、平成29年度に完成予定。

地域づくり事業

2億3,092万円



みんなが集う加茂集落活動センター



ものづくりの拠点となる発明ラボ

新たに10名採用し、自伐型林業12名、観光2名、総合型1名、農業2名、ものづくり4名で活動していく。

**地域おこし協力隊
事業**

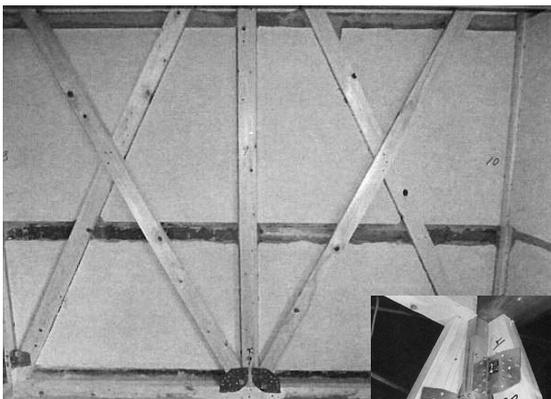
8,826万円

町民プール・サウナの非構造部材の耐震化及び改修工事を実施した。暖房設備も導入された。

町民プール改修工事 8,074万円



天井がリニューアルされた町民プール



耐震化で安全な住宅に



住宅の耐震化に対する支援事業を実施している。住宅の耐震化を促進するため、耐震診断の無料化や設計補助を上乘せし自己負担を軽減している。

木造住宅耐震化支援事業

6,264万円

(一部29年度へ繰り越し)

緊急避難場所に指定している集会所の耐震化工事を実施した。平成28年度は、室原、本村西、市の瀬、長竹、下郷・高平の5カ所。

緊急避難場所耐震化工事

1,333万円



これで安心！拠点避難所



公民館は順次耐震化される

災害時の拠点避難所となる総合文化センターと遊学館の耐震化工事が完了した。

社会教育施設耐震化事業

9,072万円

平成29年9月補正予算

(単位：円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		3,415万	65億9,728万
特別会計	国民健康保険	2,449万	20億2,373万
	住宅新築資金等貸付事業	1,042万	1173万
	介護保険	1,885万	18億8,558万
	後期高齢者医療	422万	2億3,981万
	病院事業	3,148万	20億3,425万



財産管理費
457万円

老朽町営住宅住み替え事業による解体工事について、3棟分を追加するため増額補正する。

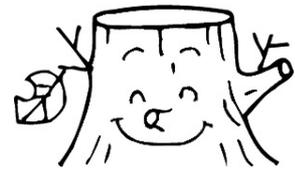


かわいバス停おめみえ

地域公共交通事業

235万円

ぐるぐるバス本格運行開始に伴い、車体への路線表示用マグネット、未設置箇所へのバス停標識の製作等を行うため増額補正する。



園芸団地整備

1980万円

特別対策事業
園芸用ハウス整備事業補助金の新規就農者1名分を追加するため増額補正する。



完成したレンタルハウス



開設がすすむ作業路

山地・作業路整備

800万円

事業
高吾北地区で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル」の採択に伴い、森林整備に必要な作業路を新設するため増額補正する。

平成28年度決算

(単位：円)

会計名		歳入総額	歳出総額
一般会計		10億0,020万	9億1,584万
特別会計	特別養護老人ホーム	13億0,506万	11億5,003万
	養護老人ホーム	1億3,071万	1億0,699万
	障害者支援施設	2億7,306万	1億5,155万
	ふるさと市町村圏	1,879万	8万
合計		27億2,782万	23億2,449万

高吾北

広域

町村事務組合

議会

9月22日

《組合長 諸般報告》

諸般の報告

特別養護老人ホームの運営状況は、年度末にかけ予想以上の医療機関入院者が発生し、稼働率が低下している。

繰越金もほぼ横ばいの状況で推移しており、厳しさもあるが安定していると考えている。

近年構成町内の介護施設の充実もあり、各施設の待機者の状況は、9月現在で春日荘32名、五葉荘25名、もみじ荘0名、あがわ荘1名となっており数年前から比べると少なくなっている。

工事請負契約の締結
高吾北衛生センター
基幹的施設整備工事
(契約の方法)
一般競争入札
(契約金額)
15億3360万円
(契約の相手方)
虹技株式会社

意見書

国・県にもの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書

(提出者)

産業厚生常任委員長

西村清勇

米価が生産費を大きく下回る水準に下落し、多くの稲作農家が「これでは作り続けられない」という状況が生まれている。稲作経営が成り立たないばかりか、水田の持つ多面的機能も喪失し、地域経済をますます困難にしていってしまうことはあきらかである。



農地を荒らさないために

経営を下支えする政策を確立することが必要だと考えられる。そうした観点から、当面、生産費をつぐなう農業者戸別所得補償制度を復活させ、国民の食糧と地域経済、環境と国土を守ることを求める。



みんなで山を守ろう

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

(提出者)

産業厚生常任委員長

西村清勇

平成29年度税制改正大綱において、「市町村が主体となって実施する

森林整備等に必要な財源に充てるため、個人住民税均等割の枠組みの活用を含め都市・地方を通じて国民に等しく負担を求めることを基本とする森林環境税(仮称)の創設」に関し、「平成30年度税制改正において結論を得る」と明記されたことから、森林・林業・山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」の早期導入を強く求める。

「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置」に関する法律」第二条に規定する国の負担又は補助の割合の特例の継続等に関する意見書

(提出者・岡村統正)

国民の生活の質を高め、生命と財産を守り、未来につなぐための道路

整備事業について、地域経済の活性化や防災力の向上に資する道路整備を推進し、安全安心な利用を確保するための修繕、老朽化対策などを計画的に進めるため、道路予算全体を拡大したうえで、必要な額を確保すること。「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第二条に規定する国の負担又は補助の割合の特例については、平成30年度以降も継続することを強く求める。



道路は生活の基盤

柳瀬川河川改修事業に関する意見書

(提出者・片岡勝二)

仁淀川からの背水影響などにより毎年のように出水期に氾濫するため、地域の幹線道路は冠水し、集落の孤立を招き、農地の耕土が流出するなど、繰り返し返される被害に住民は疲労し困窮している。
柳瀬川流域の住民が未来に夢と希望を抱けるよう、柳瀬川河川改修工事について、完成年度を設定し、早期完成に向けてしっかりと予算の確保に努めていただくよう要請する。



議員各位の意思表明

賛否表(平成29年9月定例会)

○:賛成

●:反対

-:議長

欠:欠席

	下川芳樹	坂本玲子	邑田昌平	森正彦	片岡勝一	松浦隆起	岡村統正	中村卓司	永田耕朗	西村清勇	今橋寿子	徳弘初男	藤原健祐
平成28年度一般会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度国民健康保険特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度住宅新築資金等貸付事業特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度学校給食特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度農業集落排水事業特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度介護保険特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度後期高齢者医療特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度水道事業特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度病院事業特別会計の決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度介護保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成29年度病院事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
さかわぐるぐるバスの運行に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
斗賀野駅舎の設置及び管理に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
佐川町集落活動センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
特別職の職員の給与及び報酬並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
佐川手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用を促進する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
平成28年度水道事業特別会計利益剰余金の処分について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
佐川町立保育所使用に関する協定書の締結について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
とかの集落活動センターあおぞらの指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
工事請負契約の締結について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
発委第2号 農業者戸別所得補償制度の復活を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
発委第3号 「全国森林環境税」の創設に関する意見書	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
発議第1号 柳瀬川河川改修事業に関する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
発議第2号 「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第二条に規定する国の負担又は補助の割合の特例の継続等に関する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

8人が町政を問う

ここが聞きたい



松浦 隆起 議員

夜間中学 設置に向けて検討を

教育長 現体制では困難な状況だ

夜間中学は、さまざまな理由により義務教育未修のまま学齢を超過した方々の就学機会の確保に重要な役割を担っている。本町においても夜間中学の設置等に関する協議会を組織し、夜間中学の設置に向けて検討を行うべきだ。

川井教育長 協議会は県が主導で設置されるべきものだ。夜間中学校は課題として捉えなければならぬのは当然だ。ただ、教育委員会の人員体制の中で、できることには限りがある。現体制の中で、直ちに具体的に検討して、しっかりと夜間中学校にするということは、少し困難な状況だ。

不育症治療 公費助成すべきだ

健康福祉課長 前向きには考えている



佐川高校定時制主催の佐川学講座

不育症は、妊娠しない不妊症と異なり、妊娠するけれども、流産や死産を2回以上繰り返し、結果として子どもが持てないというものだ。適切な検査や治療を行えば、8割以上が出産できると思われる。治療費の助成を行い、少しでも子どもが増えていく環境にするべきだ。

田村健康福祉課長 第5

次佐川町総合計画の施策

15で、安心して子どもを

産める環境づくりをうた

っている。平成29年

度末までにどのようにす

るか決めたい。前向きに

は考えている。

ヘルプカード 作成すべきだ

健康福祉課長

前向きに取り組みたい

「ヘルプカード」は、障害や難病を抱えた人が必要な支援をあらかじめ記しておき、緊急時や災害時などの困った際に提示して周囲の配慮や手助けをお願いしやすくするものである「ヘルプカード」作成に取り組むべきだ。

田村健康福祉課長 県の意向を確認して検討したいが、県がやらなくても町として、前向きに取り組んでいきたいと考えている。平成29年度末までに決めたい。



子どもいっぱい佐川町になるといいな！



坂本 玲子 議員

給付型奨学金制度 創設が必要

教育長 検討している

の町の施策で十分か。
経済的に困難な家庭の子どもたちが安心して学校に行けるよう、給付型奨学金の創設が必要だと考えるがどうか。

川井教育長 佐川町において約半数のご家庭が厳しい状況ということは認識している。教育において今の支援策で十分であるとは言えない。高校卒業後の段階での支援が重要ではないかと思う。

町では少子化対策の一環として、担い手確保が困難な職種に就職する人を対象として、給付型の奨学金の創設を来年度から立ち上げたいと現在検討を進めている。

佐川町では若い世代の多くの家庭が生活保護以下の生活をしている。町は若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるこの方針を出しているが、教育において、今



みんなが輝ける佐川町に！

高濃度放射性廃棄物処分場 どう対処する

町長 処分場は拒否をする

による大災害が想定されている今、高濃度放射性廃棄物の処分場について、佐川町も適正地とされているが、もし佐川町がその候補地となったとき、佐川町長としてどうするか。
堀見町長 地震の多い国での危険性について科学的判断はできないが、他のエネルギーの開発を進め、原子力発電所のない国になればいいなと思っている。佐川町への処分場建設ははつきりと拒否をする。

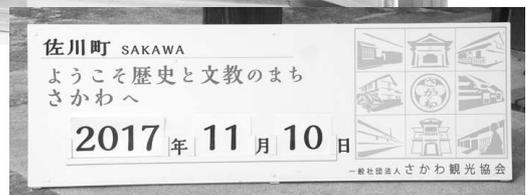
地震の多い国日本で、原発を持つことの危険についてどう思うか。地震

町長4年間の 総括と課題は

町長 課題は教育

4年間の成果と今後の課題を聞く。また必要ならに必要な施策が届いていない。総合的なアドバイザーを設置するとか、職員の教育が大事だと考えるがどうか。
堀見町長 多くの人の参加を得て総合計画ができた。今後は総合計画に基づき幸せな町づくりを進めていく。公約はおおむね達成できた。

課題については文教のまちとしての教育をくり上げていくことが一番の課題であると考ええる。そのため教育研究所を立ち上げたいと思っている。役場だけでなく、いろんな立場の方の力を結集して、支え合いのできる町をつくってきたい。



文教の町にふさわしい教育も



森 正彦 議員

教育研究所設置の目的は何か、また具体的に何をやるのか。教育現場に過重な負担はかからないか。

教育研究所 設置の目的は

町長 文教のまち佐川の教育確立だ

皆さんとよく話し合い、本当に子どもに必要な教育は何かということ、文教のまち佐川として確立したいと思っている。その教育を30年、50年続けていくと、やっぱり文教のまちだといわれる町になると思う。

具体的には佐川町の理解を深めるとともに、人間性豊かな、相手を思いやる心を持った子どもを育てていきたい。

川井教育長 ふるさと教育を実施しても児童生徒の負担が増えることにはならない。

不登校児童への 対応はよいか

教育長 成果が上がっていない

不登校児童が増加している。子どもに寄り添う、親に寄り添う体制を整えるべきではないか。

川井教育長 不登校に対して教育委員会や学校で取り組んでいることの結果が上がっていないのが現実だ。

今年から佐川中学校区で県の指定を受け加配教員を2名配置し、中一ギャップで不登校になる子どもを防ぐ取り組みをす



子どもの育ちをみんなで考えよう

等、小中学校が共同で9年間を見通して取り組む。

また、現在各学校にスクールカウンセラーが入っている。さらに県の臨床心理士のスーパーバイザーにも定期的にアドバイザーも受けるようにしている。

学校地域支援本部事業でも、地域の支援をいただき取り組みを充実していきたい。

28年度決算 自己評価は

町長 しっかり執行できた

平成28年度決算の自己評価と決算から読み取れる課題は。

堀見町長 平成28年度は当初予算で70億円を越える大きな予算を組んだ

が、住民の税金を無駄にすることなくしっかり執行できた。

課題は、基金へ積んだ額と繰り入れた額でみると実質赤字となっている。

今後、社会保障、医療の福祉関係費用が増加することが予測される。公共施設の長寿命化等の維持管理にかかる費用も必要だ。



長寿命化の工事が行われている由留岐堰



今橋 寿子 議員

全国大会出場校 町のさらなる助成を

教育長 検討したい

尾川黒岩合同チームが全国ソフトボール大会で優勝した。全国大会出場では保護者の負担が大き

い。補助金が3万円では少ない。町としてもっと支援ができないか。川井教育長 PTAからも、全国大会出場に対して、助成金を増額してほしいとの要望がある。近隣市町村の助成状況を調査の上、補助金交付要綱の改正を検討したい。



優勝報告に訪れたソフトボール部の子どもたち

生きる力を培う 教育を

教育長 教育研究所を立ち上げる

高知県の学力テストの結果はワーストクラスである。しかし結果のみに一喜一憂することはない。教育では、基礎知識を学

ぶとともに、子どもを育てるうえで、生きる力を培う環境づくりが大切だ。文教のまちとしてどうやっていくか。

川井教育長 学力テストの結果に一喜一憂することとはしていない。まずは、子どもたちに必要な基礎学力をしっかりとつけていきたい。また子どもたちに生きる力を育むことが大事だと認識している。

佐川町の偉大な先人に学ぶ、ふるさと教育が大切だ。そういった教育を体系的にしっかりとできるよう、教育研究所を立ち上げる。

佐川まるごと植物園構想 連携して取り組みを

町長 連携はできつつある

佐川まるごと植物園構想は、今の時代の先駆けの取り組みでオンラインのものも考える。しかし今ある課題に対して連携して取り組む必要があると考えるがどうか。

堀見町長 まるごと植物園構想に、それぞれの課が横断的な連携はできつつある。その輪を広げ、町全体で幸せな町づくりが進んでいけばいいと考えている。

公文産業建設課長 山野草については農業施策として該当するものはないが、今後山野草への理解を深めていきたい。



オンリーワンのまちづくり 牧野公園



片岡 勝一 議員

主に関係ある地域は越知町の女川、柴尾そして佐川町平野、大田川、黒原地区である。この地は、仁淀川、坂折川が1キロメートル手前で合流して3番目の川が柳瀬川、通常はY字型に合流している。しかし降雨で

柳瀬川河川改修完成の見通しは

産業建設課長 県に働きかける

水かさが増すと、仁淀川本流に直角に合流すると堤防を越流、耕土を流失させ冠水で作物が全滅または大被害となる。

これまでもたくさんの方々が対策を考えてくれたが、改修と完成の見通しは立っていない。後世に課題を残したくない。一刻も早い解決策はないか。

公文産業建設課長 柳瀬川改修について、県土木

越知事務所を主体として平成26年度より上流の6.3kmの未改修区間を7工区に分け下流の1工区より順次施工する。

平成26年度は全体の概略設計をし、平成27年度は氾濫解析環境調査をした。平成28年度は1工区左岸側女川、大田川用地調査、登記簿調査を実施した。



川が氾濫すると農作物の被害は甚大だ

平成29年度は右岸側柴尾地区用地調査、左右ボアリング地質調査、1工区の詳細測量設計が行われる。

平成30年度は用地測量、平成31年度から用地買取に入ると聞いている。町も、工事の早期完成に向け県に働きかけをしていく。

防犯カメラ設置必要だ

総務課長 自治会主体で

現在、防犯灯は行政が力を入れて行き渡りつつある。本町の防犯カメラは現在、現金受け払い機ATMに取りつけられている。今後、町内の各所に防犯カメラをつけ、犯罪予防、犯罪捜査の手助けとすべきだ。

麻田総務課長 街頭への防犯カメラは、町単独での実施は考えてはいないが、住民からの要望があれば、高知県街頭防犯カメラ等設置事業費補助金の活用ができる。その後は自治会などが主体で整備や維持管理を願いたい。



監視カメラのある赤土トンネル



下川 芳樹 議員

ぐるぐるバス運行 住民意見反映せよ

チーム佐川推進課長 途中からでも反映する

10月から始まるぐるぐるバスの本格運行に、住民の意見が十分に反映されていない。各地区へ出向いてこの意見集約を行い、11月から反映せよ。

岡崎チーム佐川推進課長 9月20日から29日の間、各地区での意見交換会を行う。本格運行で意見をすぐに反映することは難しいが、軽微な部分であれば途中からでも反映する。本格運行実施後7年1回、地域に出向き住民の意見を聞く場を設定したい。



ぐるぐるバスの本格運行が始まった

道の駅 候補地の絞り込みは

町長 本年度末までにしたい

道の駅は建設後の経済効果や情報発信など、相乗効果を期待する町民も多く、事業の進捗に関心を持っている。候補地の絞り込みはどうか。掘見町長 33号線沿いにまとまった町有地がないので、検討委員会の中で10案ほど候補地が出ている。土地の選定は慎重に本年度末までにしたいと思っている。

2期目における 職員との連携は

町長 同じ方向を向いて仕事をする

2期目を目指し幸せな町づくりを進めるためには、町職員との連携が不可欠である。町長の新たな取り組みを進めるため、職員の業務量が増えてきている。臨時職員を含めた職場環境について、職員と同じ方向が目指せるよう話し合いを行うべきだ。掘見町長 町民や議会からの提案に応えるため、仕事が忙しくなっているのも事実だ。

できるだけ職員が主体的な考えを尊重して、役場を運営したいと考えている。職員一人一人と向き合い話を聞いた上で思いも受け止め、佐川町民の幸せのため、同じ方向を向いて仕事をしたいと思っている。その他の質問 国民健康保険の運営移管について



職員一丸となって幸せな町づくりを！



中村 卓司 議員

黒岩の河川改修事業の進捗状況は少し遅れているように感じるが、その認識はあるのか。

黒岩の河川改修 進捗状況は

町長 計画どおりに進んでいる

堀見町長 全体的には遅いとの印象はあるかもしれないが、計画どおりに進んでいる。
公文産業建設課長 大きな事業であるが、測量調査、設計業務を県で行っている。町としても地元で丁寧な説明しながらやっていく必要があると思っております。

道の駅計画 内容についての構想は

町長 意見を聞き決定する

道の駅実行委員会では10カ所の予定地案を選定した。その中で最終的に

平成30年3月までに場所を決定し、平成32年には開始とのことだが、予算や実施運営母体、内容についての構想はあるのか。
堀見町長 場所の選定は今年度中に決め、予算についてははまだ検討していない。
土地が決まれば建物の規模、運営母体、運営主体、サービスの内容等の基本概要計画をつくる。
その内容は検討委員会の皆さんにも意見を聞き、最終的には執行部が決定する。



大雨で道路も冠水した黒岩地区



投票所が廃止された虎杖野公民館

選挙投票所の 見直しについて

選挙管理委員会事務局長 今後早期に決定する

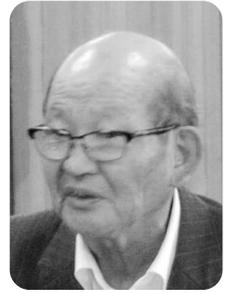
議員全員協議会の中で、選挙委員長より投票所の数が20カ所から15カ所に減ったことについて見直しとの発表があったが、どう見直すのか。
麻田選挙管理委員会事務局長 投票所の統廃合の基本的な考え方は、
① 厳しい財政状況下で行う政改革の一環として取り組む。
② 車の普及、人口減少、地理的要因などの社会環境の変化に対応する。
③ 選挙は民主主義の原点であり、政治参加の機会、手段であることを損なってはいけない。
このような考え方から統廃合が行われた。
今後は、町長、町議選挙が終了後、選挙管理委員会を早期に開催し決定する。

佐川町全体に集落活動センター及び類似の施設ができ、健康の輪が広がる条件が整った。各地区にウォーキングコースがある。歩行距離を表示す

健康づくり支援のため 距離表示の型板作れ

健康福祉課長 予算の範囲内で作る

徳弘 初男 議員



るベンチマークの型板の作成ができないか。
田村健康福祉課長 佐川町のウォーキング事業は平成21年度の補助事業として始まり、翌年の平成22年度から健康増進として取り組んで現在も継続している。ベンチマークの型板の作成は予算の範囲内で作る。



レンタルハウス事業で新規就農者増加

レンタルハウス事業

産業建設課長 ニラ、イチゴ等で拡大

レンタルハウス事業は大変有利な制度で、県、町と農協と生産者が事業費を分担する仕組みだ。ここ2〜3年間にどのような有利作物を作っているか。
公文産業建設課長 町では、農業振興の支援策として園芸用ハウス整備事業により経営農業者の初期投資への負担を軽減させている。
平成26年度は新規就農でニラ2名、規模拡大でイチゴ1名。平成27年度は新規就農でニラ1名。平成28年度は新規就農でニラ2名、トマト1名となっている。

荷稻町有林 自伐型モデル林取り組み

産業建設課長 作業道、8割整備



災害に強い作業道ができている

荷稻町有林の作業道の進捗状況はどうか。
奈良県の岡橋先生は何回くらい来町されご指導受けたか。
公文産業建設課長 昨年9月から作業道に着手しており、約4百メートルの作業が完成している。あと百メートルで町有林に到達する。8割以上整備ができている。
岡橋先生には5回ほど現地に来て指導していただいている。災害に強く壊れにくい大橋式作業道の手法を用いて開設している。

あれはどうなったか？

あの質問のゆくえ

No.43

編集後記

手話言語条例の制定を

(平成28年9月定例会)

聴覚障害者との理解を広げるため、手話教室の開催や手話通訳者養成講座等の実施を推し進める手話言語条例を制定してはどうか。

(坂本議員)

〈関連質問〉 中村議員



健康福祉課長 答 弁

今後検討する

サークルの方々に協力いただき、役場職員、町民の方々への研修を進めていきたい。条例制定は今後検討していく。

平成29年9月定例会条例可決

意思の疎通に障害のある方が、手話を含め点字、代読、音読、要約筆記等のコミュニケーション手段の普及及び利用促進を図るため、新たに佐川町手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用促進する条例を制定した。

どう
なった

あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は12月8日(金)午前9時
開会予定です。傍聴においでください。

議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。
読後のご感想、ご意見をあ寄せください。

委員	委員	委員	副委員長	委員長
橋元 陽一	宮崎知恵子	坂本 玲子	西森 勝仁	下川 芳樹

議会広報は、日頃議会の傍聴に出来ない町民の皆さんに、議会の内容を簡潔に正確にお伝えするため、5人の議員からなる編集委員会で年4回作成しています。
今回の選挙は投票率も低く、町政に関心の持てる広報の重要性を改めて強く感じました。
町民の代表として自ら選んだ議員の仕事ぶりを、ぜひ広報等を通じて確認いただくよう、よろしく申し上げます。
下川

地域で がんばる



渡辺さんと大川さん

夏の「昔ながらの七夕祭り」、春の「とかのバザール」の開催など地域で頑張っている「とかの女子会」のことを、渡辺絹子さんと大川和代さんにうかがいました。

とかの女子会

— 会のきっかけは？ —

平成26年2月、「斗賀野のみんなで何か楽しいことできんろうかねえ」とまわりの女性に声をかけたのが始まりです。

— 何人ぐらいの会ですか。 —

最初は10名の女性が集まり、自己紹介などワイワイと盛り上がりました。皆で話をするうちに会の名称は「とかの女子会」になりました。それからだんだんと増え、今は35名位です。



ワイワイ楽しくわら馬づくり

— 昔ながらの七夕祭りは楽しそうですね。 —

話すうち、「昔ながらの七夕まつり」をしようということになりました。

まつりには歌、踊りがあつたらと地元の方に「とかの音頭」をつくってもらい、踊りも小学生の協力で完成しました。わら馬や野菜などで昔ながらの七夕飾りをし、皆がゆかたを着て踊り、楽しむ「第1回昔ながらの七夕まつり」を平成26年8月に開催しました。



女子会の皆さん

— 毎年やっていますか。 —

今年で4回目を迎え、男性や地域の人々に色々な協力をしてもらっています。

— そのほかの活動はどうですか。 —

春には「とかのバザール」も開催しています。今年の10月からは集落活動センターでカレーの日の担当を始めるなど、少しずつ活動が広がっています。

— これから取り組んでみたいことは何ですか？ —

無理をせず楽しくをモットーに、会員も地域の人もみんなの出番づくりができるようになればと思います。

今はイベント事が活動の中心になっていますが、これからは健康や毎日の暮らしにかかわることに活動が少しでも広がってほしいと思います。

ありがとうございます。地域のみんなが主人公になれるような活動を、これからも頑張ってください。

あなたの周りに、佐川のまちの元気のために活躍されている「組織やグループ」をぜひ、ご紹介下さい。